

衆議院原子力問題調査特別委員会ニュース

平成 25. 5. 16 第 183 回国会第 5 号

5 月 16 日（木）、第 5 回の委員会が開かれました。

1 原子力問題に関する件

・福井文部科学副大臣、赤羽経済産業副大臣、平経済産業大臣政務官、秋野環境大臣政務官、田中原子力規制委員会委員長及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 独立行政法人日本原子力研究開発機構理事長 鈴木 篤 之君
東京電力株式会社代表執行役社長 廣 瀬 直 己君
東京電力株式会社代表執行役副社長 相 澤 善 吾君

(質疑者及び主な質疑内容)

細 田 健 一君 (自民)

- ・独立行政法人原子力安全基盤機構(以下「JNES」という。)の原子力規制庁への速やかな統合は、原子力規制庁における専門知識を有する職員及び原子力発電所の安全性審査を行うチーム数の増加のために必要と考えるが、その統合のスケジュール及び統合に向けたリーダーシップの必要性についての田中原子力規制委員会委員長(以下「田中委員長」という。)の所見を伺いたい。
- ・原子力規制委員会に対する国民及び事業者等からの信頼性を高めるため、同委員会に寄せられる主な質問への回答をホームページに掲載するなどの必要があると考えるが、田中委員長の所見を伺いたい。
- ・昨年 12 月、電力会社など関係事業者とのコミュニケーションが重要であると国際アドバイザーから指摘された以降、原子力規制委員会が関係事業者との良好かつ緊密な意思疎通を図るために講じた措置及び今後の方針について、田中委員長に伺いたい。

塩 崎 恭 久君 (自民)

- ・JNESと原子力規制庁との統合に関し、拙速に決めず根本から議論する機会をいただきたい旨の田中委員長の記者会見での発言内容について、その詳細を田中委員長に伺いたい。
- ・JNESと原子力規制庁との統合は、原子力規制委員会設置法の立法時に与野党で十分に議論した結論であり、田中委員長は、法律を誠実に執行すべき行政官として、その早期実現に向けた取組をする必要があると考えるが、同委員長の見解を伺いたい。
- ・第 1 回原子力規制委員会(平成 24 年 9 月 19 日)で決定された緊急時の体制については、規制委員会発足前に議論がなされたもので議事録も残っておらず、意思決定プロセスが不透明である。また、緊急時には田中委員長以

下委員の全員が官邸等へ行き不在となるなど、東京電力福島第一原子力発電所事故(以下「福島第一原発事故」という。)の教訓が全く生かされていない。緊急時の体制に関する議論をやり直し、形骸化した決定プロセスを改めるべきと考えるが、田中委員長の見解を伺いたい。

古 川 元 久君 (民主)

- ・使用済み核燃料問題(バックエンド問題)の原子力政策における位置付けについて、田中委員長の見解を伺いたい。
- ・民主党政権下の「革新的エネルギー・環境戦略」(平成 24 年 9 月 14 日)にある高レベル放射性廃棄物の直接処分の研究について、その進捗状況を赤羽経済産業副大臣及び福井文部科学副大臣に伺いたい。
- ・高速増殖原型炉「もんじゅ」の機器の保守点検漏れが 1 万件近く発覚した問題に関し、独立行政法人日本原子力研究開発機構(以下「JAEA」という。)が原子力規制委員会に報告した再発防止策に対し、同委員会が特に組織的要因の観点から厳しい評価を行ったことに対する鈴木 JAEA 理事長の見解を伺いたい。

玄 葉 光一郎君 (民主)

- ・東日本大震災の発災時に独立性及び透明性の高い規制当局があれば福島第一原発事故を防げた可能性、並びに福島第一原発の廃炉プロセスが原子力規制委員会にとって最も重要な任務であるとの考えに対する田中委員長の所見を伺いたい。
- ・損害賠償に係る消滅時効期間を 3 年としている民法によれば原子力損害賠償請求権は平成 26 年 3 月に時効が成立してしまうが、福島第一原発事故の全ての被害者の救済に必要な政府の施策の在り方について、福井文部科学副大臣に伺いたい。

足立 康史君（維新）

- ・安倍内閣総理大臣及び茂木経済産業大臣は福島第一原発の廃炉に関して「研究開発」については前面に出る旨答弁しているが、それ以外の全ての面で国が前面に立って廃炉事業をやっていく意思があるのか、赤羽経済産業副大臣に伺いたい。
- ・東京電力は5月10日、東日本大震災時に非常用発電機が津波により故障したことを示すデータが見つかったとし、事故原因について国会事故調査委員会の報告書とは異なる見解を示しているが、この点についての評価を田中委員長に伺いたい。
- ・福島第一原発事故の収束作業内容は世界の原子力安全対策における重要な情報源となる。日々の作業記録は東京電力が現在保管しているが、同社におけるこれら記録の保全状況について、廣瀬社長に伺いたい。また、国は、東電が保全している記録を含め、一元的に記録保全を行う必要があると考えるが、赤羽経済産業副大臣の見解を伺いたい。

小熊 慎司君（維新）

- ・平成14年の東京電力原発トラブル隠し事件、平成23年の福島第一原発事故をはじめとして、同社の組織体質は何も変わっておらず、国民からの信頼も信任も得られていない。今後、電力事業全体の信頼及び信任をどのように取り戻していくべきと考えるか、田中委員長の所見を伺いたい。
- ・原子力対策本部において、避難指示解除に向け線量水準の見直しが年内を目途に行われるとのことであるが、その具体的スケジュールを原子力規制庁に伺いたい。また、除染に係る中間貯蔵施設の設置に関しては、その設置場所の選定基準及び具体的スケジュールを明確にするとともに、最終処分場の設置方針とセットで、政治決断により決める必要があると考えるが、秋野環境大臣政務官の見解を伺いたい。

斉藤 鉄夫君（公明）

- ・我が国は、原子力船「むつ」の放射線漏れ事故及び東海村JCO臨界事故を経験して来たにもかかわらず、福島第一原発事故を防ぐことができなかった根本原因は何なのか、田中委員長の所見を伺いたい。
- ・原子力規制行政の責任者としての基本哲学及び原子力に対する国民からの信頼回復のために最も必要な点について、田中委員長に伺いたい。
- ・原子力規制委員会の発足から約8ヵ月が経過したが、その間の業務において人材面で困った点、原子力規制庁職

員の定員を大幅に増員する必要性について、田中委員長に伺いたい。

椎名 毅君（みんな）

- ・高速増殖原型炉「もんじゅ」に対する原子力規制委員会による保安措置命令に至るまでの経緯及びこのような事態に発展した理由は何か、また、理事長の言う実体的安全性及び手続的安全性とはどのような意味であるか、鈴木JAEA理事長の見解を伺いたい。
- ・「もんじゅ」は、運転を停止していた方が設備の劣化が早いとの指摘もあるため、運転していることを前提としたものではなく、停止を前提とした保安規定を定めることが重要と考えるが、鈴木JAEA理事長の見解を伺いたい。
- ・「もんじゅ」等、高速増殖炉に今後要する予算額はどの程度と想定しているか、文部科学省に伺いたい。また、高速炉について放射性物質の減容化に係る研究炉とする議論があるが、今後どのように見直すつもりか、資源エネルギー庁に伺いたい。

笠井 亮君（共産）

- ・福島第一原発は、大量の放射能を外部に放出することとなり、結果的には立地審査指針に照らして不適合なものであったと考えるが、田中委員長の見解を伺いたい。
- ・フィルタ付きベントの設置によってどの程度放射能の放出を減らすことができるのか。また、フィルタ付きベントの設置に5年間の猶予期間が設けられているが、フィルタ付きベントの設置前に大震災が再び発生しベントを要する事態になった場合にするのか、田中委員長の見解を伺いたい。

玉城 デニー君（生活）

- ・高速増殖原型炉「もんじゅ」の機器の保守点検漏れが1万件近く生じた経緯及び現在までのJAEAの対応について、鈴木JAEA理事長に伺いたい。
- ・福島第一原発において現在貯蔵されている放射能汚染水のタンク毎の量について、相澤東京電力副社長に伺いたい。